かすみがうら市
地球温暖化対策実行計画区域施策編及び
再生可能エネルギービジョン

参　考　資　料

目　　次

第 1 章 アンケート説明資料 1

第 2 章 アンケート結果の詳細 6
2-1 8年生の回答 6
2-1-1 単純集計 6
2-1-2 クロス集計 14
2-2 保護者の回答 16
2-2-1 単純集計 16
2-2-2 クロス集計 30
2-3 事業者の回答 34
2-3-1 単純集計 34

第 3 章 温室効果ガス排出量推計の考え方 51

第 4 章 脱炭素シナリオの考え方 52
4-1 脱炭素シナリオの参考とした資料 52
4-2 脱炭素シナリオの検討方法 53

第 5 章 再生可能エネルギー導入ポテンシャル推計の詳細 54
5-1 太陽光発電 54
5-2 風力発電 58
5-3 中小水力発電 60
5-4 バイオマス利用 61
5-4-1 木質系バイオマス 61
5-4-2 植物系バイオマス 69
5-4-3 畜産廃棄物系バイオマス 75
5-4-4 食品廃棄物系バイオマス 78
5-4-5 汚泥系バイオマス 83
5-4-6 その他バイオマス 86
5-5 太陽熱利用 90
5-6 地中熱利用 92

第 6 章 協議会の実施 94

第1章 アンケート説明資料

市民（8 年生とその保護者）を対象としたアンケート実施時に、使用した説明資料を下記に示します。

令和5年度　再生可能エネルギーに関する市民アンケート調査について

【地球温暖化の現状（このまま行くと・・・）】

【アンケート調査の内容】

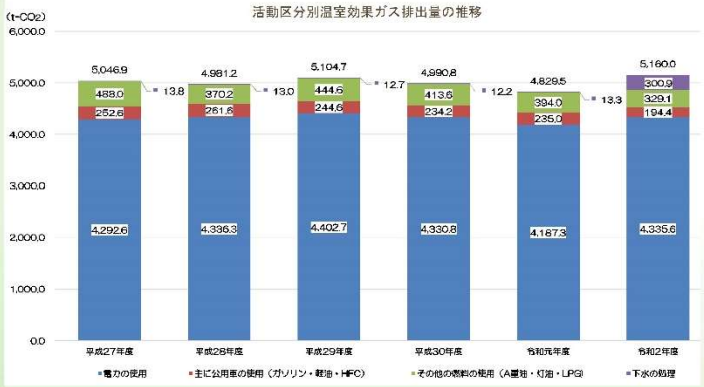
今回のアンケートは、**市民8年生のみなさんとその保護者の方**を対象に行います。
設問は８問あり、内容は再生可能エネルギーや省エネに対する関心や活用状況などについてです。

設問	内容
設問 2．3	再生可能エネルギー・省エネルギーに関する取り組みへの関心及び関心のある分野について
設問 4～7	再生可能エネルギーや省エネルギー設備の活用状況及び活用している設備、再生可能エネルギー・省エネルギーの大切さについて
設問 8	市の環境をより良いものにするために、市が重点的に取り組むべきことについて

アンケート結果は、**地球温暖化防止のための実行計画**や、かすみがうら市の**再生可能エネルギービジョン策定**に役立てられます。
ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

【かすみがうら市の現状】

温室効果ガスの排出量が、平成27年度から令和元年度に向かって減少傾向だったが、令和2年度に5,160.027(kg-CO2)に増加しています。
増加の原因は、電力の使用と下水の処理によるものが多くなっており、削減目標の達成に向けて**一層の努力が必要**です。



市は、第五次温室効果ガス排出制御実行計画の中で、基本方針を６つ掲げ、排出量削減に向け取り組んでいます。

基本方針１　省エネルギーの推進	○A機器や照明機器家電製品などの電力使用時の工夫
基本方針２　環境に配慮した公用車の使用	エコカーの導入やエコドライブの励行
基本方針３　省資源・資源循環の取り組み	エコマークやグリーンマークの付いた環境ラベリング商品の選択、ペーパーレス化、雨水の利用、節水
基本方針４　再生可能エネルギーの利活用の拡大	公共施設に太陽光発電設備や蓄電池等の再エネ設備を設置、太陽光発電以外の水力やバイオマス等の再エネ導入の検討
基本方針５　温室効果ガス吸収源の確保	市有施設への壁面・屋上緑化、緑地の保全
基本方針６　職員の意識醸成・率先行動推進	職員の環境意識向上のための研修会や勉強会等の開催

きらり輝く　湖（みず）と山（みどり）　笑顔と活気のふれあい都市
～未来へ紡ぐ安心とやさしさの郷（さと）　かすみがうら～

令和５年度かすみがうら市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）及び再生可能エネルギービジョン策定業務　かすみがうら市市民部環境保全課

再生可能エネルギーの理解促進に向けた情報シート

再生可能エネルギーとは？【設問6に関係】

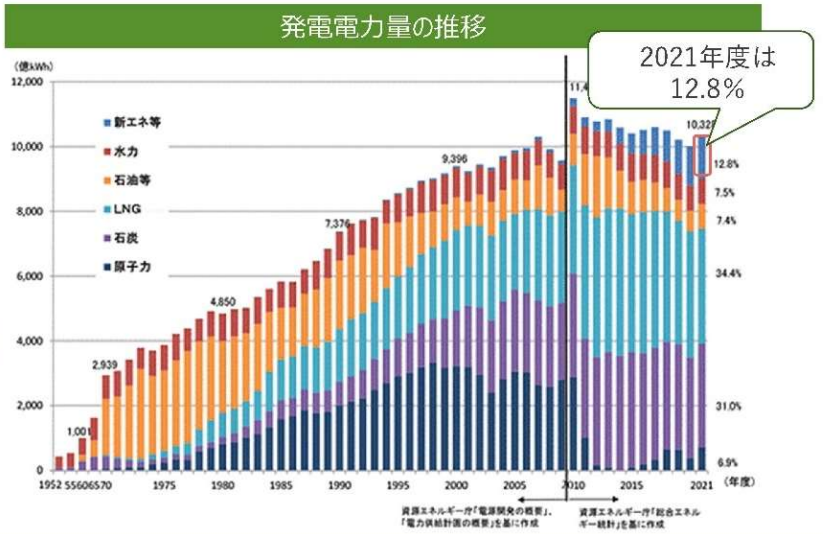
使い続けるとなくなってしまう石油・石炭などの化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱などのエネルギーは、使うより早く再生する再生可能エネルギーといいます。

また、再生可能エネルギーは発電時や熱利用時に地球 温暖化の原因となる二酸化炭素（以下、CO2）をほとんど排出しないため、CO2の排出を減らすために重要な役割をもっています。

さらに、再生可能エネルギーは純国産エネルギーであることから、海外から輸入している化石燃料の輸入金額の削減が期待できます。

日本でも再生可能エネルギーの活用が拡大していますが、まだまだ大きくありません。

一番上の青色部分が
再生可能エネルギーだね！
少しずつ増えているけどまだまだ
低い割合なのがわかるよ！



省エネとは？【設問6に関係】

省エネとは、「省エネルギー」の略です。石油や石炭、天然ガスなど、限りあるエネルギー資源がなくなってしまうことを防ぐため、エネルギーを効率よく使うことをいいます。

日本の家庭部門のエネルギー消費量は第一次石油ショックがあった1973年から2018年度までに約2倍に増加しています。節電や省エネ型の製品を選択することが、家庭の省エネにつながります。

再生可能エネルギーの理解促進に向けた情報シート

再生可能エネルギーや省エネはなぜ必要なの？【設問6に関係】

理由①地球温暖化対策

エネルギーの大半は、石油や石炭などの化石燃料を燃焼することによって得られていますが、これに伴って、大気中にCO2が排出されます。エネルギーの大量消費によりこのCO2濃度が上昇し、宇宙に放出されるはずの熱が大気中に封じ込められる温室効果が進み、地球が温暖化しています。

地球温暖化が進むと、地球規模での気温上昇や海面上昇などにより、食料供給や居住環境などに重大な影響を及ぼす恐れがあると予測されています。

エネルギーの消費量を抑制する節電や、CO2が排出されない再生可能エネルギーの導入が求められます。

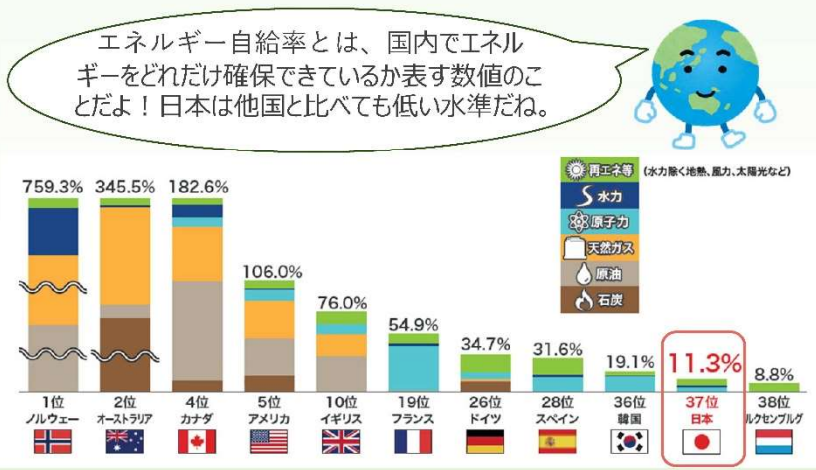
理由②エネルギーの安定供給

現在の私たちの暮らしや社会は、エネルギーの消費によって成り立っています。日常生活に欠かすことのできない電気、ガス、水道はもちろん、現代社会の基礎になっている運輸、通信などもすべてエネルギーを利用しています。

しかし、日本はエネルギーの大半を化石燃料に依存しており、資源のほとんどを輸入に頼っている状態で、海外の情勢の影響を大きく受ける可能性が高くなっています。

世界情勢に左右されずに、安定してエネルギーを供給するために、国内で生産できる再生可能エネルギーが注目されています。

主要国のエネルギー自給率の比較（2020年）



再生可能エネルギーの理解促進に向けた情報シート

再生可能エネルギーはこんなことにも使われる！【設問6に関係】

①　災害時の非常用電源

再生可能エネルギーは、一か所で集中して発電することが多い化石燃料に対し、比較的小規模で様々な地域に分散して発電する分散型エネルギーと言われています。分散型エネルギーは、災害等に集中型エネルギーの供給が途絶えた場合でも、継続的な発電が可能です。

近年、台風や大雨といった自然災害に備えて、避難所に太陽光発電設備や蓄電池を整備する自治体も増えています。

②　地域でのエネルギー生産

再生可能エネルギーは、豊富な日射、安定した風、落差ある河川、温泉に代表される地熱、森林資源など、都市部より郊外・地方部における導入ポテンシャルが大きい特徴があります。

また、再生可能エネルギーを導入することで、設備の製造、建設・設置、維持管理等に係る人員の新規雇用を創出する効果もあります。

地域のポテンシャルを活かし、その土地に根差した再生可能エネルギービジネスの振興を図ることにより、地域の活性化につながることが期待されています。

再生可能エネルギーの理解促進に向けた情報シート

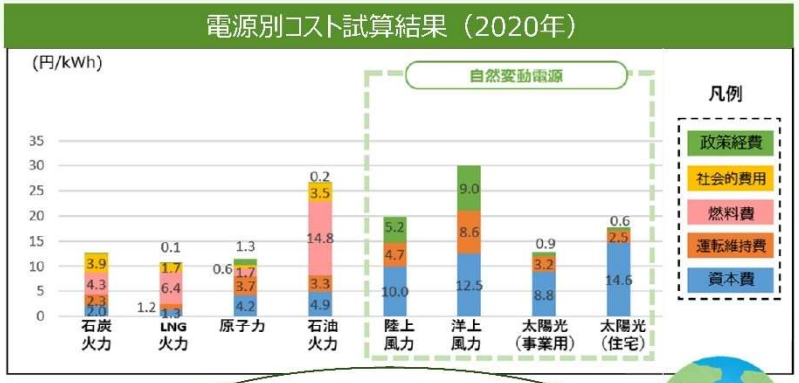
再生可能エネルギーのデメリット！？【設問7に関係】

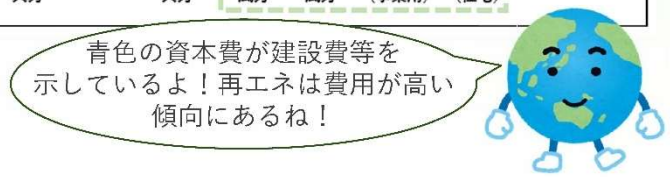
① 不安定な供給

再生可能エネルギーは、太陽光発電や風力発電など、出力が気象等の自然条件に依存しており、制御が困難という特徴もあります。火力発電、水力発電、原子力発電、太陽光発電や風力発電といったさまざまな発電方法には、それぞれの特性があるため、どのような発電方法を組み合わせればいいのかを考える必要があります。

② 電気料金の増加

現在の日本では、再生可能エネルギー設備を導入するために多額のコストがかかります。再生可能エネルギーの導入促進のために、再生可能エネルギーで発電した電力を一定期間国が購入することを約束する「固定価格買い取り制度」に必要な費用の一部は、電気の使用者から広く集められる再エネ賦課金によって賄われているため、その分電気料金が増加してしまいます。





③ 景観への影響

再生可能エネルギーは様々なメリットを有していますが、設備の設置により景観を大きく変えてしまう可能性もあります。

設置にともなう自然環境への影響を抑えるには、設置予定地が自然環境に及ぼす悪影響が少ない適切な場所を選ぶことが大切です。

第2章 アンケート結果の詳細

本章では、アンケート結果の詳細を示します。

なお、端数処理の関係で、合計が100%にならないことがあります。

2-1 8年生の回答

2-1-1 単純集計

表 2-1 回答者の世帯構成

Q1_1		あなたご自身のことについておたずねします。下記について各項目の該当するものを1つだけ選択してください。／世帯構成（SA）			
		2世代（親と子など）	多世代（親・子・孫などの3世代以上の世帯）	その他	無回答
全体	248	142	80	2	24
	100%	57.3%	32.3%	0.8%	9.7%

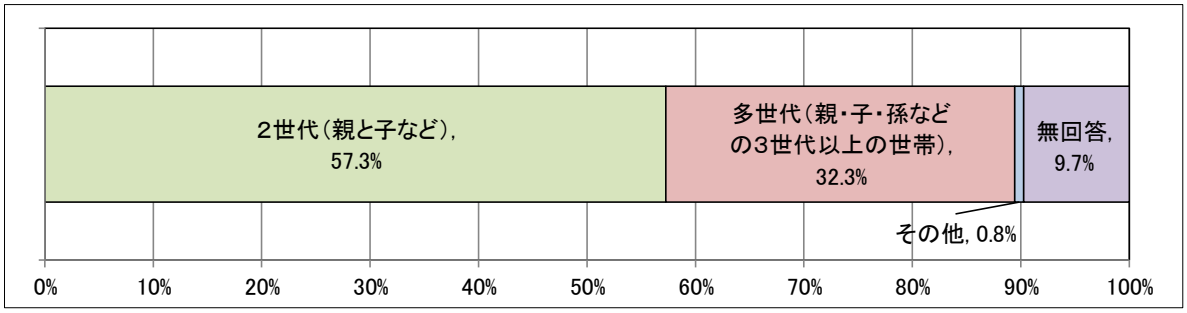


図 2-1 回答者の世帯構成

世帯構成は、2世代（親と子など）が 57.3%と最も多く、次いで多世代（親・子・孫などの3世代以上の世帯）が32.3%であり、この2形態で全体の約 99%を占めました。

表 2-2 回答者の学区

Q1_2		あなたご自身のことについておたずねします。下記について各項目の該当するものを1つだけ選択してください。／地域（SA）			
		霞ヶ浦中学校区	千代田義務教育学校区	下稲吉中学校区	無回答
全体	248	78	14	129	27
	100%	31.5%	5.6%	52.0%	10.9%

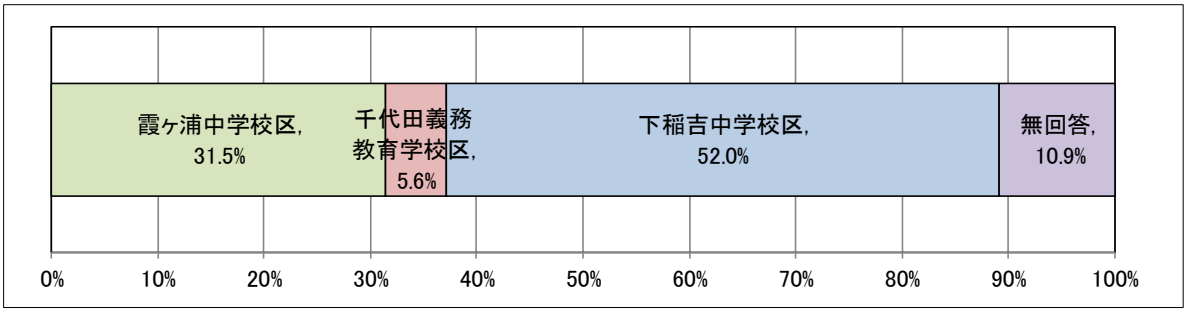


図 2-2 回答者の学区

生徒の通学区は、下稲吉中学校区が 52.0%、次いで霞ヶ浦中学校区が 31.5%、千代田義務教育学校区が 5.6%でした。

表 2-3 質問 2 の回答結果

Q2		あなたは再生可能エネルギーや省エネルギーなどに関する取組に関心がありますか。（SA）				
		関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答
全体	248	19	79	98	41	11
	100%	7.7%	31.9%	39.5%	16.5%	4.4%

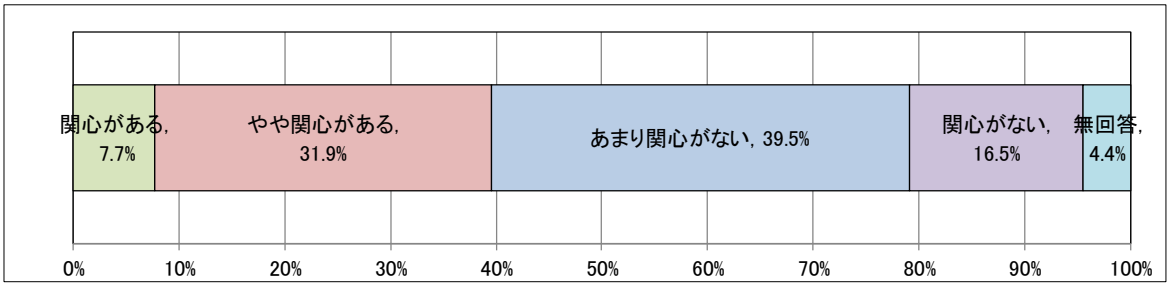


図 2-3 質問 2 の回答結果

再生可能エネルギーや省エネルギーの取組への関心の程度は以下に示すとおりです。

・関心があるは 7.7%に留まっています。

・関心がある、やや関心がある、を合計しても 39.6%であり、再生可能エネルギーや省エネルギーに関する取組への関心は半数以下となりました。

表 2-4　質問 3（質問 2 で主として「関心がある」の回答者向け）の結果

Q3		Q2で「関心がある」、「やや関心がある」と答えた方におたずねします。あなたはどのような取組に関心がありますか。（MA）											
		太陽光発電	水力発電	風力発電	バイオマス	地中熱利用※1	地熱発電※2	太陽熱利用	水素エネルギー	電気自動車（EV）	蓄電池	省エネ住宅・省エネ機器の導入	その他
全体	98	57	36	37	9	2	11	11	23	35	4	15	0
	－	58.2%	36.7%	37.8%	9.2%	2.0%	11.2%	11.2%	23.5%	35.7%	4.1%	15.3%	0.0%

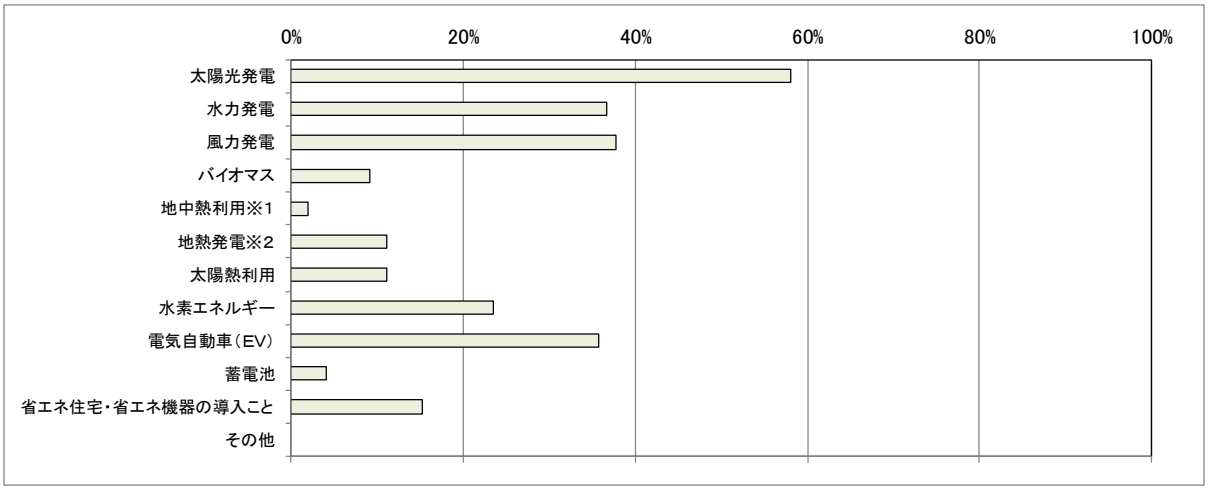


図 2-4　質問 3（質問 2 で主として「関心がある」の回答者向け）の結果

再生可能エネルギーや省エネルギーの取組へ関心がある、またはやや関心がある、との回答者の関心のある具体的な取組は、以下に示すとおりです。

・関心が高い取組は、太陽光発電の 58.2%でした。

・太陽光発電に次いでは、風力発電が 37.8%、電気自動車（EV）が 35.7%、水力発電が 36.7%と近接していました。

・地中熱利用は 2.0%、蓄電池は 4.1%、バイオマスは 9.2%であり、これら 3 つの取組への関心の程度は 1 割未満となっていました。これらは、触れる機会が少ないなど認知度の低さによるものと推察されます。

表 2-5 質問４の結果

Q4		あなたの家庭では再生可能エネルギーや省エネルギー機器を利用していますか。（SA）			
		すでに利用している	興味はあるが、現時点では利用していない	利用の予定はない	無回答
全体	248	72	73	84	19
	100%	29.0%	29.4%	33.9%	7.7%

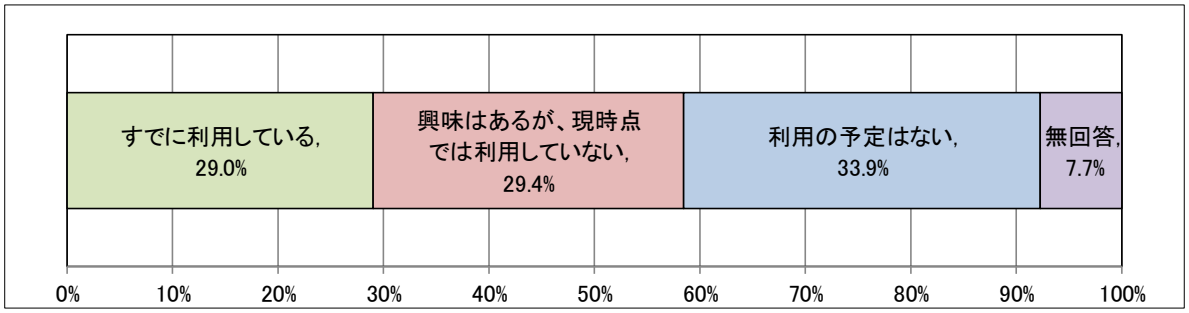


図 2-5 質問４の結果

再生可能エネルギーや省エネルギーの家庭における利用の程度は、以下に示すとおりです。

・利用の予定はない（33.9%）が最も多く、すでに利用している（29.0%）、興味はあるが、現時点では利用していない（29.4%）は、いずれも 30%以下でした。

・本問は、回答者が 8 年生であることを考えると、家庭の機器の利用状況を知らない可能性が高く、今後の利用等に関しての判断を有する立場にはないと考えられるため、保護者に確認したうえで回答した結果であることが推察されます。このことから、8 年生本人の意識と乖離した回答となっている可能性もあると思われます。

表 2-6 質問 5 の結果

Q5		かすみがうら市として、再生可能エネルギーや省エネルギーに取り組んでいくことは大切だと思いますか。（SA）			
		大切だと思う	どちらでもない	大切だと思わない	無回答
全体	248	197	35	1	15
	100%	79.4%	14.1%	0.4%	6.0%

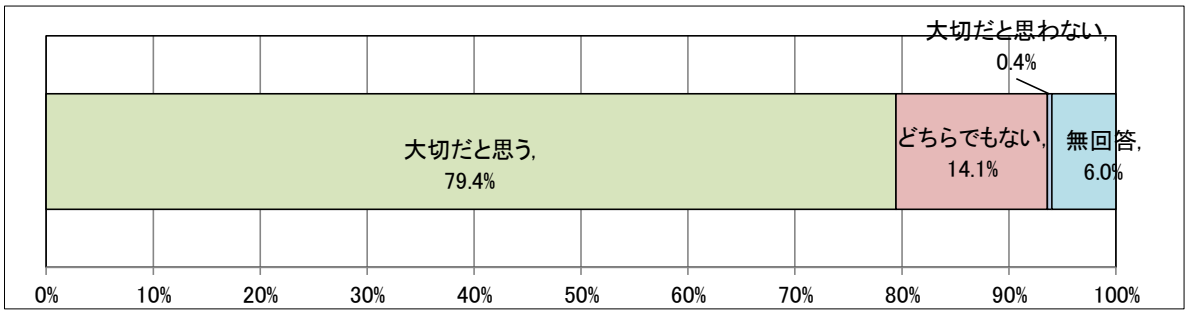


図 2-6 質問 5 の結果

かすみがうら市に対する再生可能エネルギーや省エネルギーの今後についての思いは、以下に示すとおりです。

・大切だと思う、が 79.4%と約 8 割を占め、大切だと思わないは 0.4%でした。

表 2-7 質問 6（質問 5 で「大切だと思う」の回答者向け）の結果

Q6		Q5で「大切だと思う」を選んだ方におたずねします。再生可能エネルギーや省エネルギーが大切だと思う理由は何ですか。（SA）							
		地球温暖化対策のため	安心安全なエネルギー源の確保のため（再生可能エネルギーや省エネルギーは環境への負荷を減らし、エネルギー供給の持続性を高めるため、安心で安全なエネルギー源と見られる。）	災害時の非常用電源等確保のため（再生可能エネルギーは燃料を必要とせず、エネルギーを生産するために自然の源（太陽光・風力など）を利用するため、災害による燃料供給の中断の影響を受けにくい。）	エネルギーの地産地消※3の実現のため	再エネ・省エネによるCO2排出削減効果や地球温暖化対策などに関する環境教育のため（若い世代がエネルギー問題への意識を高め、行動を促す。）	地元雇用の拡大のため（再生可能エネルギー施設は特定の地域に設置されるため、施設の建設、運用、メンテナンスなどに地元の作業が必要になるので、地元の労働者に雇用機会を提供する。）	その他	無回答
選択	197	125	28	14	3	22	0	1	4
	100%	63.5%	14.2%	7.1%	1.5%	11.2%	0.0%	0.5%	2.0%

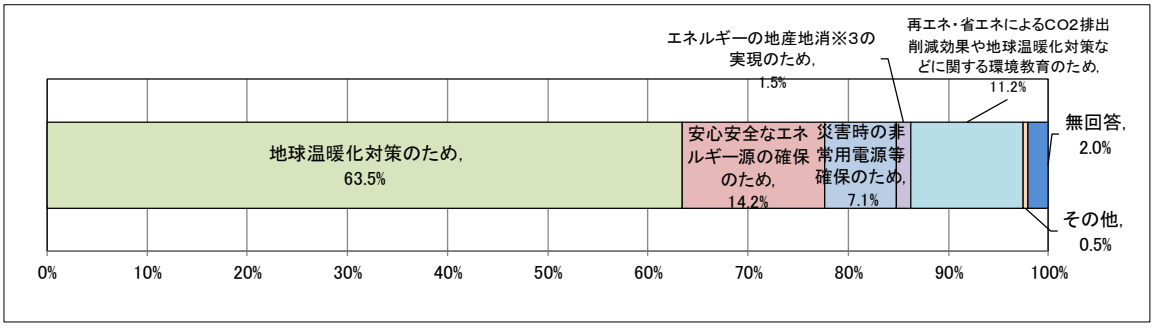


図 2-7 質問 6（質問 5 で「大切だと思う」の回答者向け）の結果

大切だと思う、の選択理由については、以下のとおりです。

・最も多い理由は、地球温暖化対策のための 63.5%であり、安心安全なエネルギー源の確保のためが 14.2%、再エネ・省エネによる CO_2 排出削減効果や地球温暖化対策などに関する環境教育のためが 11.2%と続き、この 3 項目以外の選択は 1 割程度でした。

表 2-8　質問 7(質問 5 で「どちらでもない」「大切だと思わない」の回答者向け)の結果

Q7		Q5で「どちらでもない」「大切だと思わない」を選んだ方におたずねします。再生可能エネルギーや省エネルギーが大切だと思わない理由は何ですか。(SA)						
		エネルギー供給が不安定だと思う(再生可能エネルギーは天候に依存することが多い。天候の変動により、エネルギー供給も変動し、安定した電力供給が難しくなることがある。)	再生可能エネルギー導入によって電気料金が高くなることへの不安(再生可能エネルギー設備の導入には、高額な初期コストがかかる。再生可能エネルギーの不安定性を緩和するために、追加に蓄電池の導入が必要になる。これには追加のコストがかかり、電気料金が上昇する可能性がある。)	地域環境(山林、農地など)の保全(再生可能エネルギーの設備の建設や運用には、環境への一定の影響がある。例えば、発電所の建設は野生動植物の生息地に影響を与えることがある。)	景観への影響(再生可能エネルギーの機器は大規模であり、風景に対して目立つ存在となり、景観を変えることがある。)	興味がない	その他	無回答
選択	36	5	3	2	3	21	2	0
	100%	13.9%	8.3%	5.6%	8.3%	58.3%	5.6%	0.0%

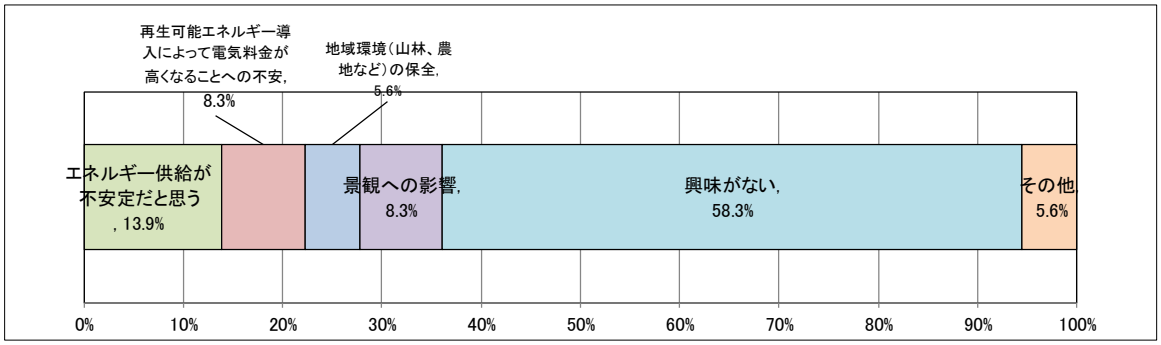


図 2-8　質問 7(質問 5 で「どちらでもない」「大切だと思わない」の回答者向け)の結果

どちらでもない、大切だと思わない、の選択理由については、以下のとおりです。

・最も多い理由は、興味がないの 58.3%であり、他の理由の回答率が 5.6%～13.9%であることを考えると特出しています。

・上記より、市の「再生可能エネルギーや省エネルギーの取組」に対して、興味がないの回答が約 60%と特出している状況の解消が望まれます。

表 2-9 質問８の結果

Q8		かすみがうら市の環境をより良いものにするために、市が重点的に取り組むべきことは何だと考えますか。(MA)						
		太陽光や風力等の環境負荷の少ない再生可能エネルギーの利用、省エネの取組を進めていくこと	電気自動車※4やプラグインハイブリッド自動車※5など、次世代自動車の普及を進めること	太陽光発電等の再生可能エネルギー機器を設置する際の補助金や助成金等の情報を市民に分かりやすく周知す	環境について学べる場や機会を充実させること	地球温暖化対策や再エネ・省エネににについて知ることができる機会やイベントなど実施していくこと	市民や事業者と協力して、再エネ・省エネに関する取組が推進できる体制を整えること	その他
全体	303	149	65	74	70	78	87	4
	－	49.2%	21.5%	24.4%	23.1%	25.7%	28.7%	1.3%

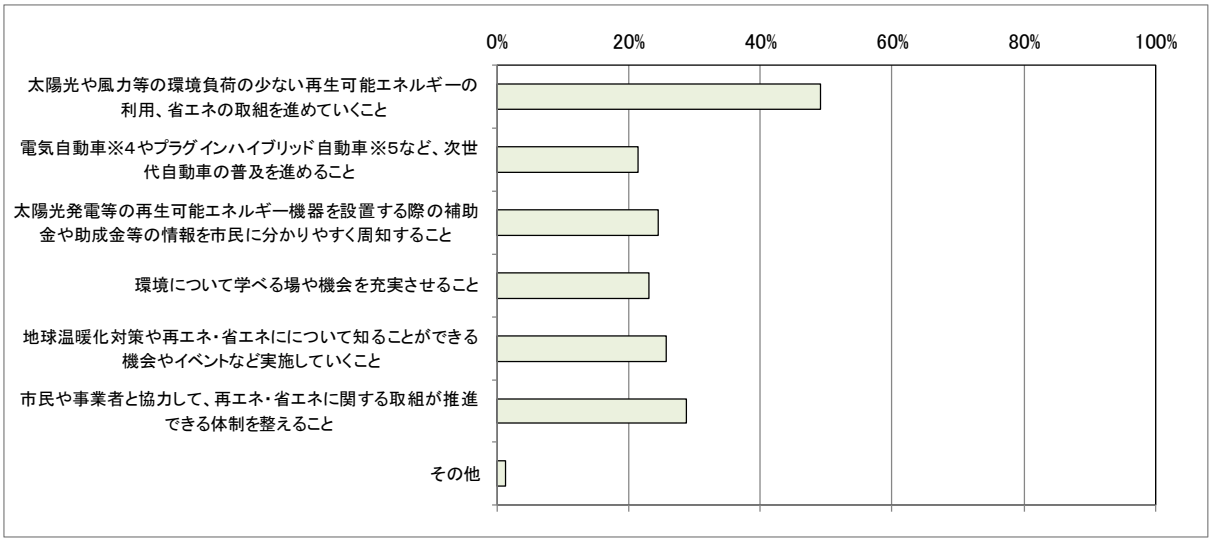


図 2-9 質問８の結果

かすみがうら市をよくするための市が重点的に取り組むべきことに関する考えは以下に示すとおりです。

・重点的な取組としては、太陽光や風力等の環境負荷の少ない再生可能エネルギーの利用、省エネの取組を進めていくこと、が 49.2%であり、次いで市民や事業者と協力して、再エネ・省エネに関する取組が推進できる体制を整えること(28.7%)でした。

・上記以外の取組の選択率は、21.5%～25.7%であり、どの選択肢に対しても 20%以上の回答者が重点的課題として選択していました。

2-1-2 クロス集計

クロス集計は、属性と質問 2 及び質問 5 について実施しました。

表 2-10 属性と質問 2 のクロス集計結果

属性－Q2			あなたは再生可能エネルギーや省エネルギーなどに関する取組に関心がありますか。(SA)				
			関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	合計
質問1－1	2世代	度数	8	49	59	24	140
		%	5.7%	35.0%	42.1%	17.1%	－
	多世代	度数	11	27	31	10	79
		%	13.9%	34.2%	39.2%	12.7%	－
	その他	度数	0	0	1	1	2
		%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	－
質問1－2	霞ヶ浦中学校区	度数	9	27	24	18	78
		%	11.5%	34.6%	30.8%	23.1%	－
	千代田義務教育学校区	度数	4	5	5	5	19
		%	21.1%	26.3%	26.3%	26.3%	－
	下稲吉中学校区	度数	5	41	63	17	126
		%	4.0%	32.5%	50.0%	13.5%	－

(世帯構成別)

・2 世代世帯は、やや関心がある(35.0%)、関心がある(5.7%)の順で多く、両者の合計は 40.7%でした。あまり関心がない、は 42.1%でした。

・多世代世帯も、やや関心がある(34.2%)、関心がある(13.9%)の順で多く、両者の合計は 48.1%でした。あまり関心がない、は 39.2%でした。

・2 世代世帯は両親と本人であり、両親の年齢は 30 歳代～40 歳代と思われ、この世代は関心が高いと推定しましたが、多世代構成とほぼ同様でした。なお、多世代の方が 2 世代より関心がある、の回答率は上回りました。

(学区別)

・霞ヶ浦中学校区は、やや関心がある(34.6%)に次いであまり関心がないが 30.8%の回答率でした。やや関心がある(34.6%)、関心がある(11.5%)の合計は 46.1%でした。

・千代田義務教育学校区は、やや関心がある、あまり関心がない、関心がない、の 3 つが同率(26.3%)でした。関心があるは 21.1%で、3 学区の中では最も多い結果となりました。やや関心がある(26.3%)、関心がある(21.1%)の合計は 47.4%でした。

・最も回答者数が多い下稲吉中学校区は、あまり関心がない(50.0%)と関心がない(13.5%)の合計が、63.5%であり、あまり関心がない、が 50%を占めているのは特筆的です。

逆に、関心がある、は 4.0%に留まっています。

・全体的に、再生可能エネルギーや省エネルギーの関心は中程度であり、環境教育の効果的な展開が必要と考えられます。下稲吉中学校区に関しては、地域性なども今後確認し、再生可能エネルギーや省エネルギーへの関心を高める必要があると思われます。

表 2-11 属性と質問 5 のクロス集計結果

属性－Q5			かすみがうら市として、再生可能エネルギーや省エネルギーに取り組んでいくことは大切だと思いますか。（SA）			
			大切だと思う	どちらでもない	大切だと思わない	合計
質問1－1	2世代	度数	119	18	0	137
		%	86.9%	13.1%	0.0%	
	多世代	度数	65	12	1	78
		%	83.3%	15.4%	1.3%	
	その他	度数	0	0	1	1
		%	0.0%	0.0%	100.0%	
質問1－2	霞ヶ浦中学校区	度数	65	12	24	101
		%	64.4%	11.9%	23.8%	
	千代田義務教育学校区	度数	11	3	0	14
		%	78.6%	21.4%	0.0%	
	下稲吉中学校区	度数	5	41	63	109
		%	4.6%	37.6%	57.8%	

（世帯構成別）

・2 世代世帯は、大切だと思う、が 86.9%の回答率であり、大切だと思わない、はゼロでした。

・多世代世帯も、2 世代世帯同様、大切だと思う、が 83.3%と 80%以上を示しました。1 名が大切だと思わない、への回答でした。

（学区別）

・霞ヶ浦中学校区は、大切だと思う（64.4%）に次いで、大切だと思わない、が 23.8%の回答率でした。

・千代田義務教育学校区は、大切だと思う、が 78.6%、とちらでもない、が 21.4%であり、大切だと思わない、の回答者はゼロでした。

・下稲吉中学校区は、大切だと思わない、の回答率が 57.8%と半数以上を占め、大切だと思う、は 4.6%とわずかであることは特筆的です。

・学区別の回答割合では、質問 2（再生可能エネルギーや省エネルギーの関心）で関心がない、と回答した人が、大切だと思わない、へ回答していることが推察できます。

2-2 保護者の回答

2-2-1 単純集計

表 2-12 回答者の年代

Q1_1		あなたご自身のことについておたずねします。下記について各項目の該当するものを1つだけ選択してください。／年齢（SA）								
		20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代以上	無回答
全体	66	0	7	47	11	1	0	0	0	0
	100%	0.0%	10.6%	71.2%	16.7%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

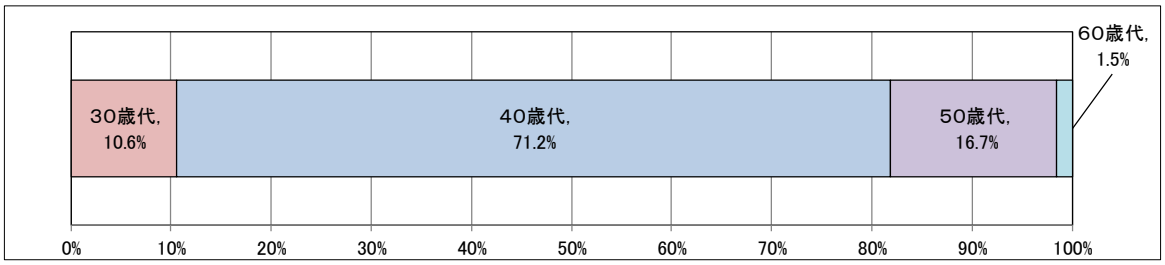


図 2-10 回答者の年代

年代は、40 歳代が 71.2%と最も多く、次いで 50 歳代が 16.7%、30 歳代が 10.6%、60 歳代が 1.5%でした。

表 2-13 回答者の世帯構成

Q1_2		あなたご自身のことについておたずねします。下記について各項目の該当するものを1つだけ選択してください。／世帯構成（SA）			
		2世代（親と子など）	多世代（親・子・孫などの3世代以上の世帯）	その他	無回答
全体	66	53	13	0	0
	100%	80.3%	19.7%	0.0%	0.0%

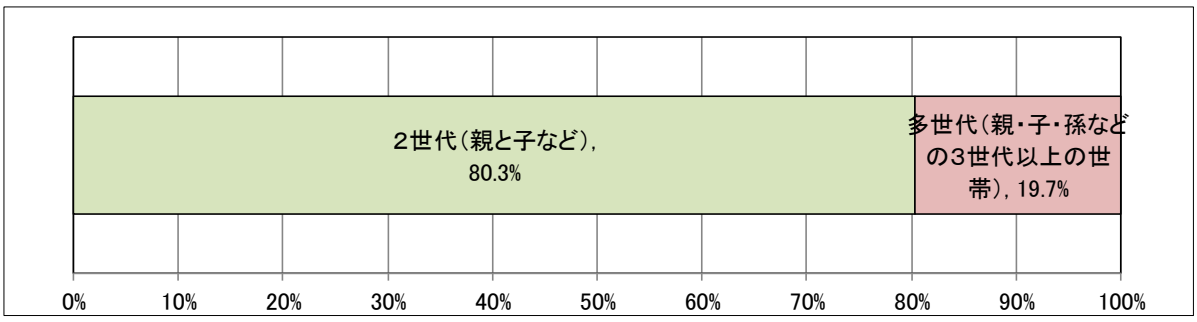


図 2-11 回答者の世帯構成

世帯構成は、2世代（親と子など）が 80.3%、多世代（親・子・孫などの3世代以上の世帯）が 19.7%（計 100%）でした。

表 2-14 回答者の職業

Q1_3		あなたご自身のことについておたずねします。下記について各項目の該当するものを1つだけ選択してください。／職業（複数ある場合は、主たるもの）（SA）						
		自営業（家族従事者含む）	正社員	パート・派遣等の非正規雇用	家事	無職	その他	無回答
全体	66	2	28	30	5	0	0	1
	100%	3.0%	42.4%	45.5%	7.6%	0.0%	0.0%	1.5%

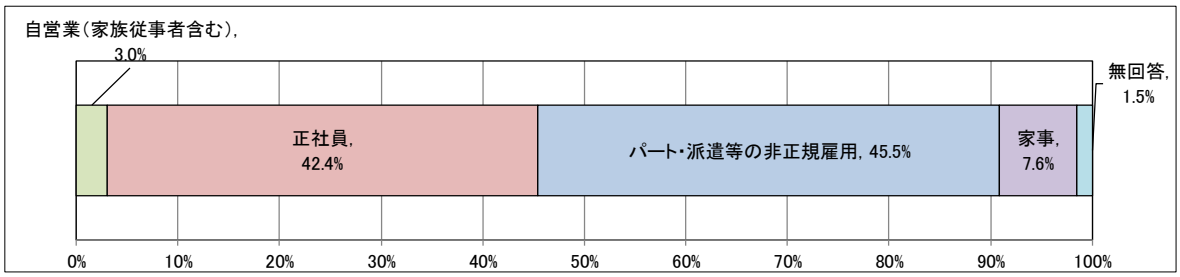


図 2-12 回答者の職業

就業形態は、パート・派遣等の非正規雇用が 45.5%と最も多く、次いで正社員が 42.4%であり、非正規雇用、正社員が全体の約 88%を占めました。

表 2-15 回答者の学区

Q1_4		あなたご自身のことについておたずねします。下記について各項目の該当するものを1つだけ選択してください。／地域（SA）			
		霞ヶ浦中学校区	千代田義務教育学校区	下稲吉中学校区	無回答
全体	66	23	14	29	0
	100%	34.8%	21.2%	43.9%	0.0%

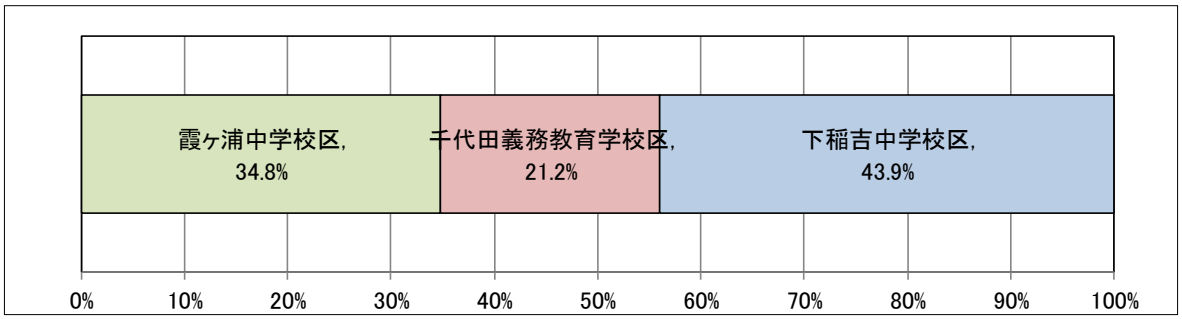


図 2-13 回答者の学区

回答者の学区は、下稲吉中学校区が 43.9%、次いで霞ヶ浦中学校区が 34.8%、千代田義務教育学校区が 21.2%でした。

（参考：8 年生の回答は、下稲吉中学校区が 52.0%、次いで霞ヶ浦中学校区が 31.5%、千代田義務教育学校区が 5.6%）

再生可能エネルギーや省エネルギーの取組への関心の結果は、以下に示すとおりです。

表 2-16 質問 2 の回答結果

Q2		あなたは再生可能エネルギーや省エネルギーなどに関する取組に関心がありますか。(SA)				
		関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答
全体	66	18	30	15	3	0
	100%	27.3%	45.5%	22.7%	4.5%	0.0%

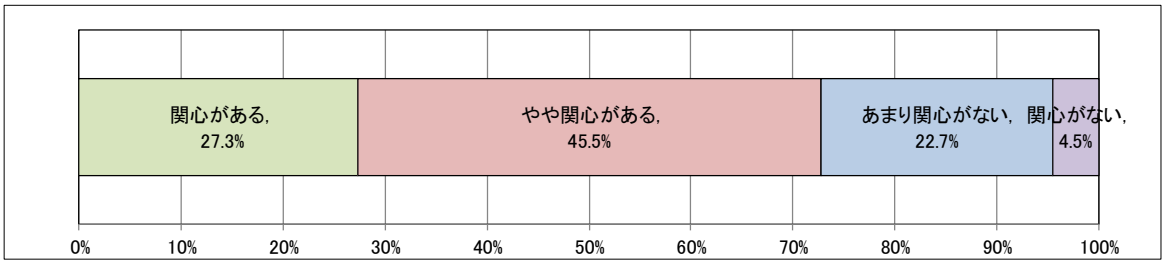


図 2-14 質問 2 の回答結果

・最も多かったのは「やや関心がある」45.5%となり、次いで「関心がある」27.3%であり、合計すると約 7 割が再生可能エネルギーや省エネルギーに関する取組への関心をもっているという結果となりました。
(参考:8 年生の回答は、「関心がある」「やや関心がある」を合計しても 39.6%)

表 2-17 質問 3(質問 2 で主として「関心がある」の回答者向け)の結果

Q3		Q2で「関心がある」、「やや関心がある」と答えた方におたずねします。あなたはどのような取組に関心がありますか。(MA)											
		太陽光発電	水力発電	風力発電	バイオマス	地中熱利用※1	地熱発電※2	太陽熱利用	水素エネルギー	電気自動車(EV)	蓄電池	省エネ住宅・省エネ機器の導入	その他
	48	34	4	7	6	2	3	4	4	19	18	26	0
	−	70.8%	8.3%	14.6%	12.5%	4.2%	6.3%	8.3%	8.3%	39.6%	37.5%	54.2%	0.0%

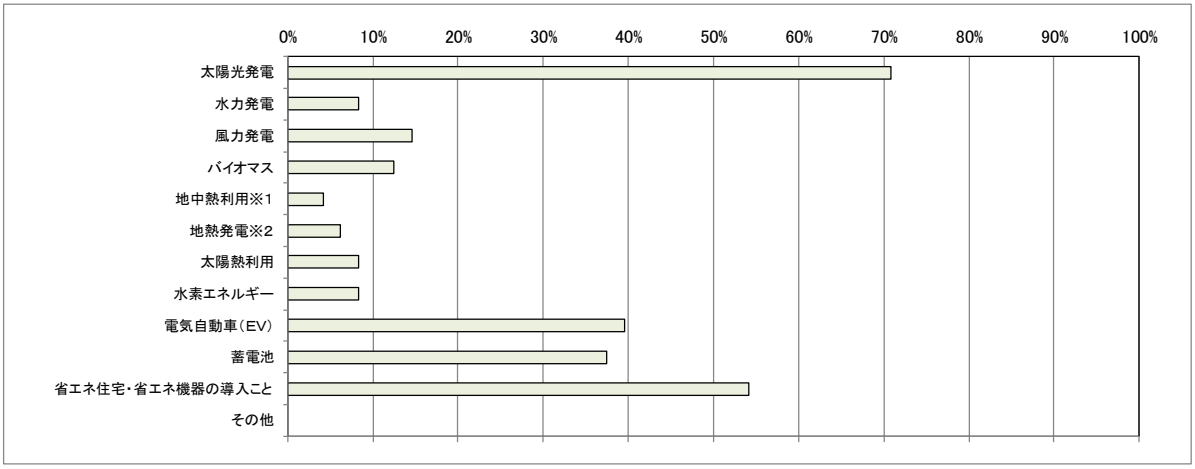


図 2-15 質問 3(質問 2 で主として「関心がある」の回答者向け)の結果

・再生可能エネルギーや省エネルギーの取組で、最も関心が高い取組は太陽光発電の 70.8%でした。
・太陽光発電に次いでは、省エネ住宅・省エネ機器の導入が 54.2%、電気自動車(EV)が 39.6%、蓄電池が 37.5%でした。
・関心が少ない取組では、地中熱利用の 4.2%、地熱発電の 6.3%、太陽熱利用の 8.3%、水素エネルギーの 8.3%であり、これら 4 つの取組は、1 割未満となっています。これらは、触れる機会が少ないなど認知度の低さによるものと推察されます。

表 2-18 質問４の結果

Q4		あなたは生活の中で再生可能エネルギーや省エネルギー設備を活用していますか。（SA）			
		すでに活用している	興味はあるが、現時点では活用していない	活用の予定はない	無回答
全体	66	19	31	16	0
	100%	28.8%	47.0%	24.2%	0.0%

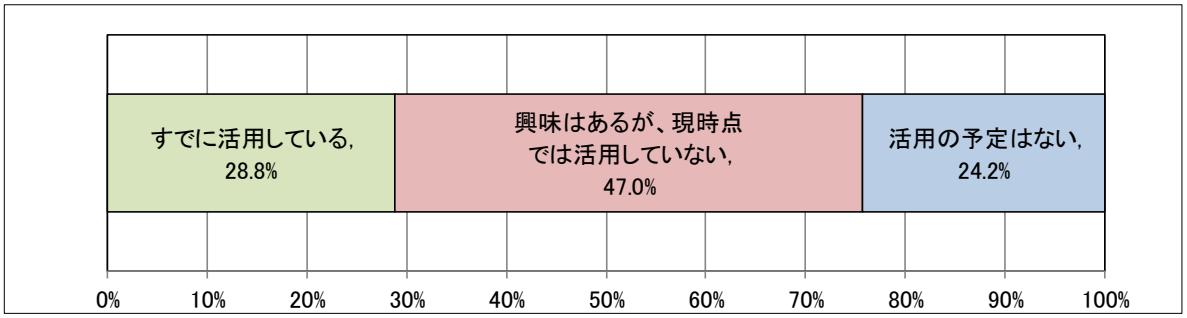


図 2-16 質問４の結果

・再生可能エネルギーや省エネルギーの家庭における利用の程度は、「興味はあるが、現時点では活用していない」が 47.0%と最も多く、「すでに利用している」は 28.8%でした。
・再生可能エネルギーや省エネルギーの利用に対しては、全体の約 75%が肯定的と思われます。

表 2-19 質問 5（質問 4 で「すでに活用している」の回答者向け）の結果

Q5		Q4で「すでに活用している」と答えた方におたずねします。すでに活用している再エネ設備、省エネ設備はなんですか。（MA）									
		太陽光発電	電気自動車（EV）	EV充電器	蓄電池	家庭用燃料電池（エネファーム等）	太陽熱利用（太陽熱温水器等）	ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）※	HEMS（家庭内エネルギー管理システム）※	木質バイオマス給湯・暖房設備	その他
	19	19	3	2	2	1	1	0	0	0	0
	−	100%	15.8%	10.5%	10.5%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

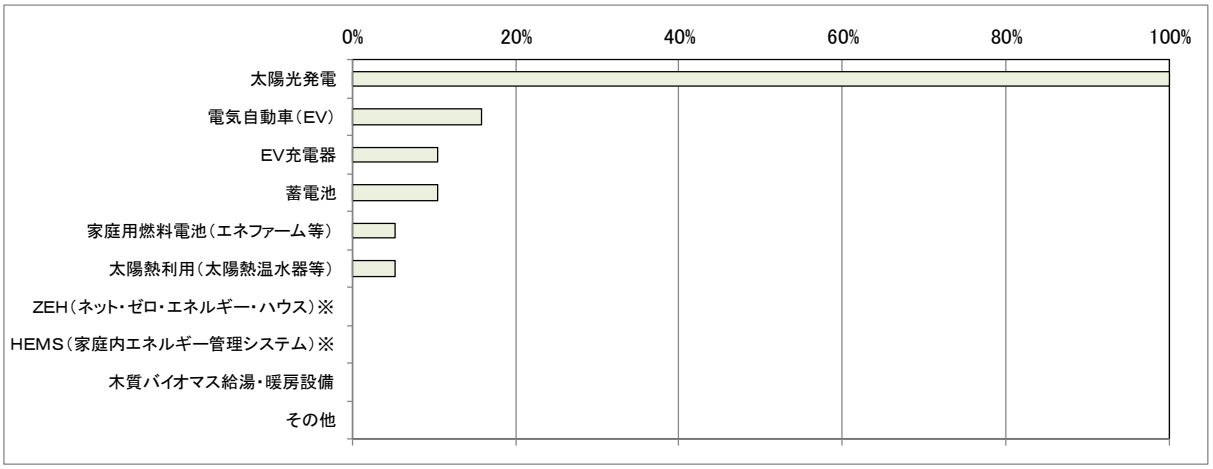


図 2-17 質問 5（質問 4 で「すでに活用している」の回答者向け）の結果

・再生可能エネルギーや省エネルギー設備をすでに活用している回答者の、活用している再エネ設備、省エネ設備は、太陽光発電が 100%であり、回答者全員が活用していました。
・太陽光発電以外では、電気自動車（EV）が 15.8%、EV 充電器が 10.5%、蓄電池が 10.5%でした。

再生可能エネルギーや省エネルギー設備に興味はあるが、現時点で活用していない、活用の予定はない回答者についての質問に対する結果は、以下に示すとおりです。

表 2-20 質問 6（質問 4 で「興味はあるが、現時点で活用していない」の回答者向け）の結果

Q6		Q4で「興味はあるが、現時点では活用していない」と答えた方におたずねします。興味を持っている再エネ設備、省エネ設備はなんですか。（MA）									
		太陽光発電	電気自動車（EV）	EV充電器	蓄電池	家庭用燃料電池（エネファーム等）	太陽熱利用（太陽熱温水器等）	ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）※	HEMS（家庭内エネルギー管理システム）※	木質バイオマス給湯・暖房設備	その他
	31	21	20	2	11	5	2	5	3	4	0
	－	67.7%	64.5%	6.5%	35.5%	16.1%	6.5%	16.1%	9.7%	12.9%	0.0%

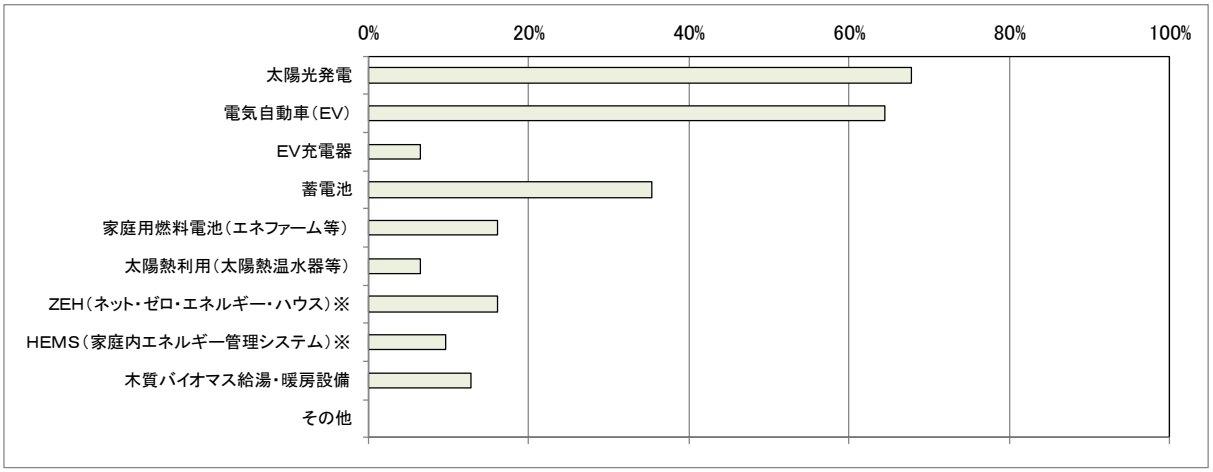


図 2-18 質問 6（質問 4 で「興味はあるが、現時点で活用していない」の回答者向け）の結果

・興味を持っている設備は、太陽光発電が 67.7%と最も多く、次いで電気自動車が 64.5%でした。

表 2-21 質問 7(質問 4 で「興味はあるが、現時点で活用していない」「活用の予定はない」の回答者向け)の結果

Q7		Q4で「興味はあるが、現時点では活用していない」「活用の予定はない」と答えた方におたずねします。現在活用をしていない理由はなんですか。(MA)								
		設置費用が高額である	設置する場所がない、設置できる環境でない	設備能力に不安がある	補助金や助成金等の情報が不足している	相談できる専門家がいない	導入する必要がない	導入の方法がわからない	興味がない	その他
	47	35	14	6	16	8	0	7	3	0
	−	74.5%	29.8%	12.8%	34.0%	17.0%	0.0%	14.9%	6.4%	0.0%

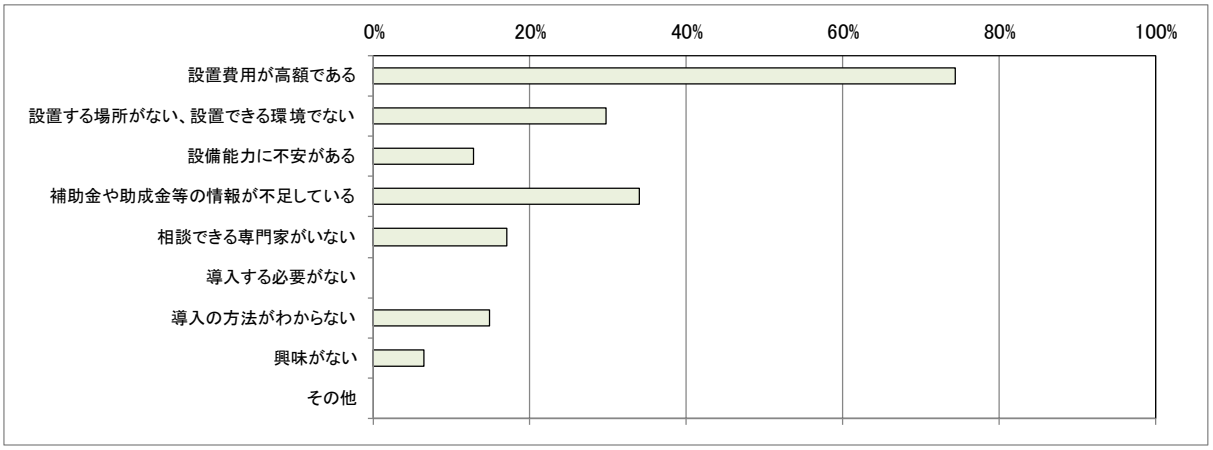


図 2-19 質問 7(質問 4 で「興味はあるが、現時点で活用していない」「活用の予定はない」の回答者向け)の結果

・活用をしていない理由は、「設置費用が高額である」が 74.5%と最も高く、次いで「補助金や助成金当の情報が不足している」が 34.0%であり、費用に関する理由が上位を占め、活用への関心はあるものの費用面等により活用できていない状況にあることが窺えます。
・「相談できる専門家がいない」「導入の方法がわからない」も 1～2割見受けられることから、PR の充実が必要と考えられます。

表 2-22 質問 8（質問 4 で「興味はあるが、現時点で活用していない」「活用の予定はない」の回答者向け）の結果

Q8		Q4で「興味はあるが、現時点では活用していない」「活用の予定はない」と答えた方におたずねします。今後、どのような支援があれば再エネ・省エネに取り組みたいと思いますか。（MA）				
		補助金・助成金が導入されれば取り組みたい	補助金・助成金が拡大されれば取り組みたい	相談窓口があれば取り組みたい	より充実した情報提供があれば取り組みたい	その他
	47	29	26	10	20	2
	－	61.7%	55.3%	21.3%	42.6%	4.3%

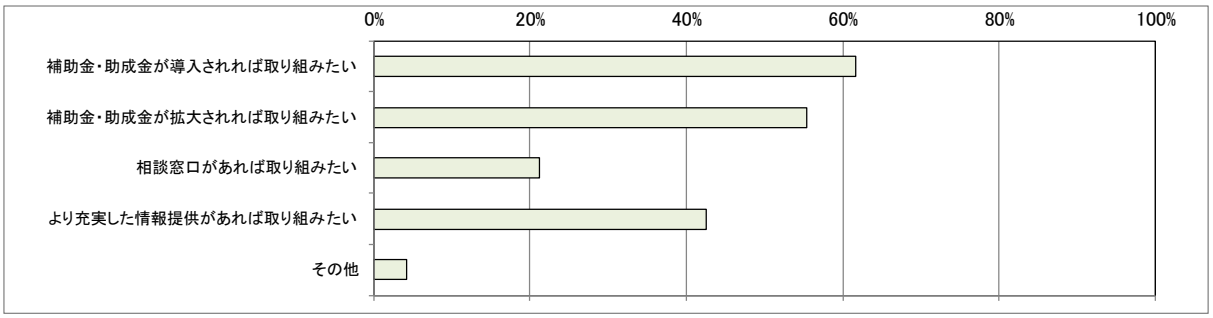


図 2-20 質問 8（質問 4 で「興味はあるが、現時点で活用していない」「活用の予定はない」の回答者向け）の結果

・求める支援内容は、「補助金、助成金が導入されれば取り組みたい」が 61.7%と最も高く、次いで「補助金・助成金が拡大されれば取り組みたい」が 55.3%となり、費用面の支援を求める回答が多くを占めました。
・上記以外では、「より充実した情報提供があれば取り組みたい」が 42.6%、「相談窓口があれば取り組みたい」が 21.3%でした。

表 2-23 質問 9 の結果

Q9		再エネ・省エネの取り組みに係る国、茨城県、かすみがうら市等の補助金について知っていますか。（SA）		
		知っている	知らない	無回答
全体	66	7	59	0
	100%	10.6%	89.4%	0.0%

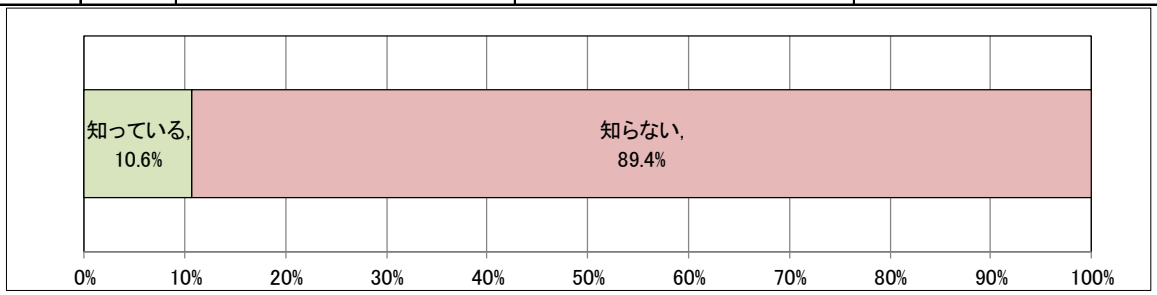


図 2-21 質問 9 の結果

・再エネ・省エネの取組に係る補助金については、知らないが全体の約 90％を占めており、補助金に関する情報が行き届いていないと推察されます。

表 2-24 質問 10（質問 9 で「知っている」の回答者向け）の結果

Q10		Q9で「知っている」と答えた方におたずねします。再エネ・省エネの取り組みに係る国、茨城県、かすみがうら市等の補助金を利用したことがありますか。（SA）		
		ある	ない	無回答
全体	7	3	4	0
	100%	42.9%	57.1%	0.0%

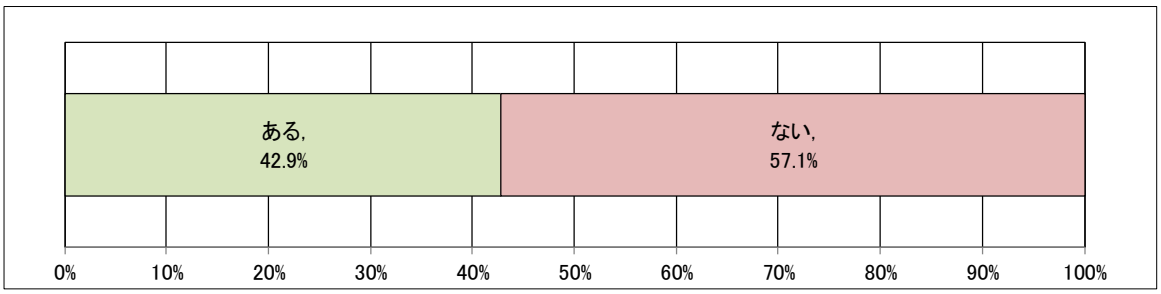


図 2-22 質問 10（質問 9 で「知っている」の回答者向け）の結果

・補助金について知っている回答者の利用の有無については、あるが 42.9%、ないが 57.1%で、利用していない回答者の方がやや多く見られました。

表 2-25 質問 11(質問 10 で「ない」の回答者向け)の結果

Q11		Q10で「ない」と答えた方におたずねします。補助金を利用していない理由は何ですか。(MA)				
		どのような補助金があるのかわからない	補助金の申請条件が厳しい	補助金の金額が少ない	取り組みたい内容の補助がない	その他
	4	1	0	1	3	0
	–	25.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%

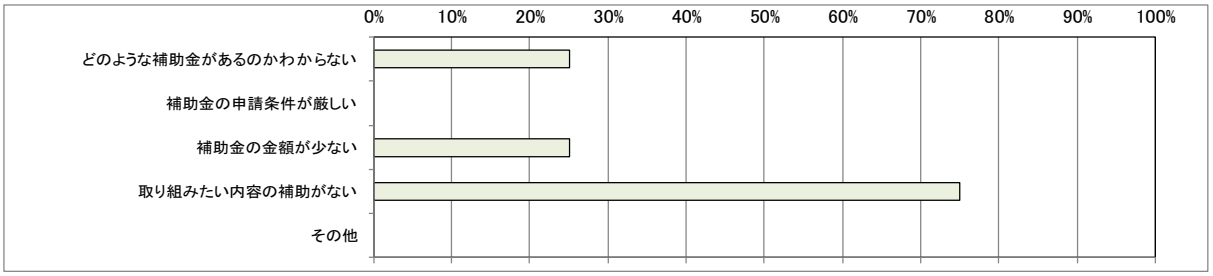


図 2-23 質問 11(質問 10 で「ない」の回答者向け)の結果

・補助金を利用していない理由は、「取組みたい内容の補助がない」が 75.0%と最も多く、「どのような補助金があるのかわからない」「補助金の金額が少ない」がともに 25.0%でした。

表 2-26 質問 12 の結果

Q12		かすみがうら市として、再生可能エネルギーや省エネルギーに取り組んでいくことは大切だと思いますか。(SA)			
		大切だと思う	どちらでもない	大切だと思わない	無回答
全体	66	59	6	1	0
	100%	89.4%	9.1%	1.5%	0.0%

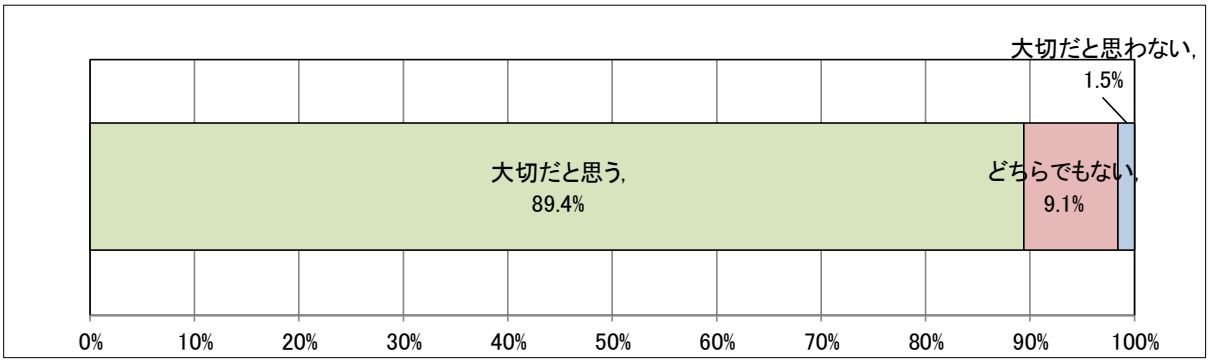


図 2-24 質問 12 の結果

・かすみがうら市に対する再生可能エネルギーや省エネルギーの今後についての思いは、「大切だと思う」が 89.4%と全体の約 9 割を占めており、「大切だと思わない」は 1.5%でした。

表 2-25　質問 13(質問 12 で「大切だと思う」の回答者向け)の結果

Q13		Q12で「大切だと思う」を選んだ方におたずねします。再生可能エネルギーや省エネルギーが大切だと思う理由は何ですか。(MA)						
		地球温暖化対策のため	安心安全なエネルギー源の確保のため	災害時の非常用電源等確保のため	エネルギーの地産地消の実現のため	再エネ・省エネによるCO2排出削減効果や地球温暖化対策などに関する環境教育のため	地元雇用の拡大のため	その他
	59	55	34	33	11	28	8	2
	−	93.2%	57.6%	55.9%	18.6%	47.5%	13.6%	3.4%

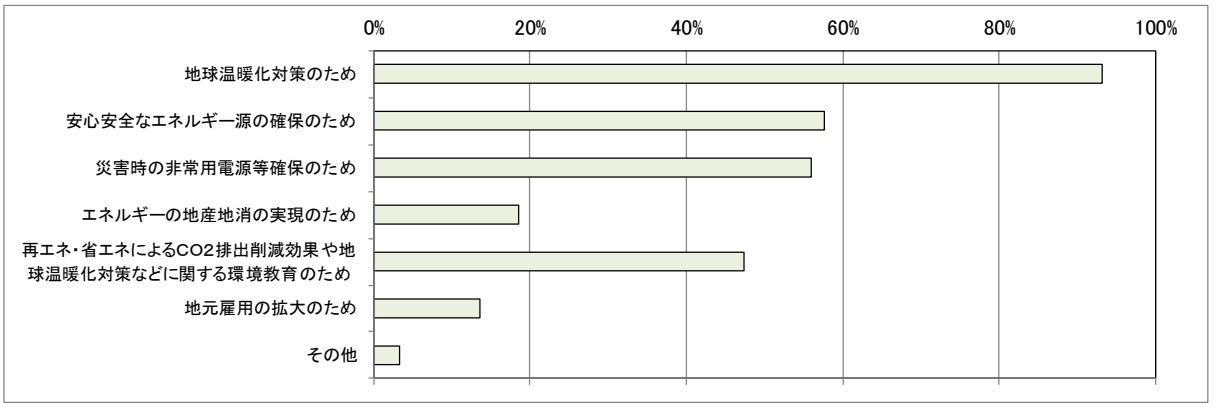


図 2-25　質問 13(質問 12 で「大切だと思う」の回答者向け)の結果

・取り組んでいくことが大切だと思う理由については、「地球温暖化対策のため」が 93.2%と最も高く、次いで「安心安全なエネルギー源の確保のため」が 57.6%、「災害時の非常用電源等確保のため」が 55.9%であり、この 3 つの理由は半数以上が選択していました。

表 2-26　質問 14（質問 12 で「どちらでもない」「大切だと思わない」の回答者向け）の結果

Q14		Q12で「どちらでもない」「大切だと思わない」を選んだ方におたずねします。再生可能エネルギーや省エネルギーが大切だと思わない理由は何ですか。（MA）					
		エネルギー供給が不安定だと思う	再生可能エネルギー導入によって電気料金が高くなることへの不安	地域環境（山林、農地など）の保全	景観への影響	興味がない	その他
	7	1	3	1	1	3	0
	－	14.3%	42.9%	14.3%	14.3%	42.9%	0.0%

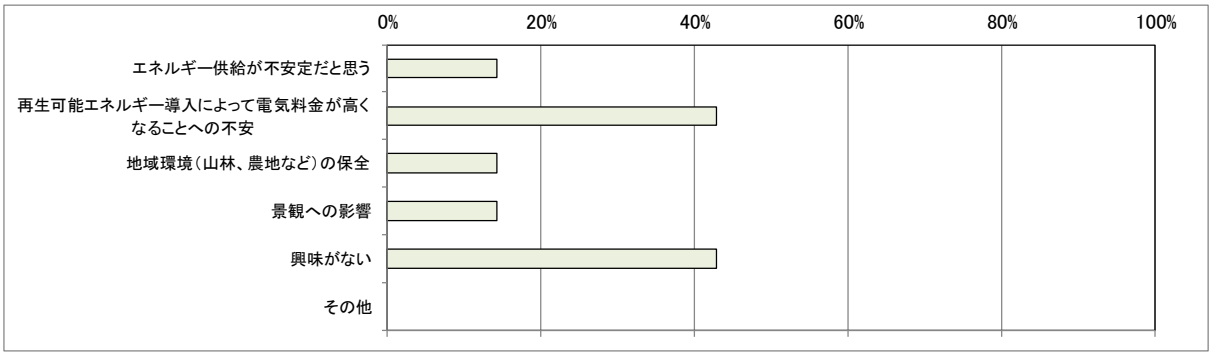


図 2-26　質問 14（質問 12 で「どちらでもない」「大切だと思わない」の回答者向け）の結果

・再生可能エネルギーや省エネルギーに取り組んでいくことが大切だと思わない理由については、「再生可能エネルギー導入によって電気料金が高くなることへの不安」、「興味がない」がともに 42.9％で最多を占めました。

表 2-27 質問 15 の結果

Q15		かすみがうら市の環境をより良いものにするために、市が重点的に取り組むべきことは何だと考えますか。(MA)						
		太陽光や風力等の環境負荷の少ないエネルギーの利用、省エネの取組を進めていくこと	電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など、次世代自動車の普及を進めること	補助金や助成金等の情報を市民に分かりやすく周知すること	環境学習の場や機会を充実させること	温暖化対策や再エネ・省エネに関する広報活動やイベントなどを実施していくこと	市民や事業者と協力して、再エネ・省エネに関する取組が推進できる体制を整えること	その他
	66	35	12	51	15	17	28	0
	−	53.0%	18.2%	77.3%	22.7%	25.8%	42.4%	0.0%

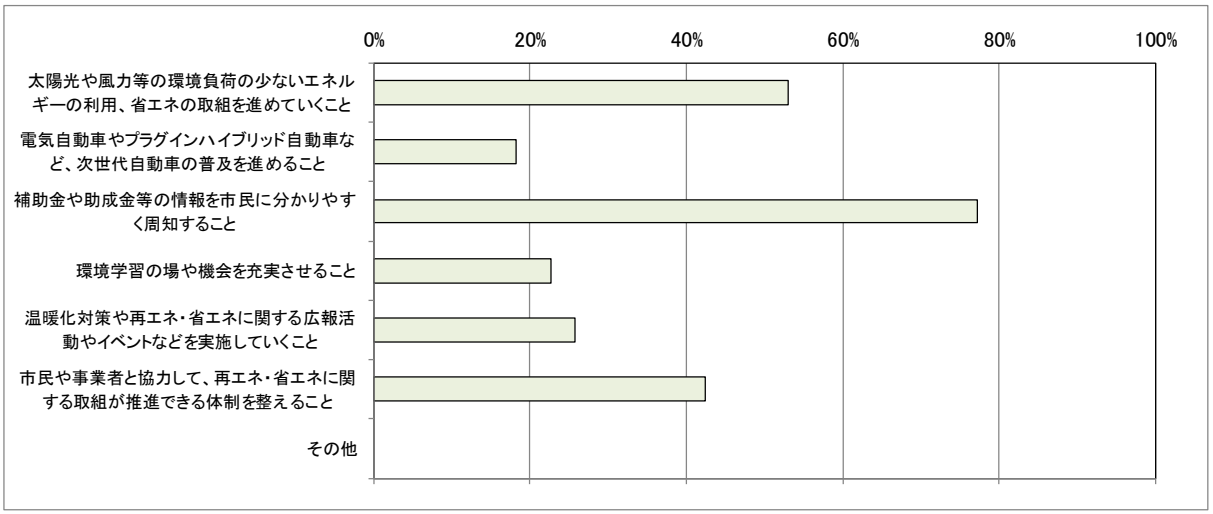


図 2-27 質問 15 の結果

・環境をより良いものにするために市が重点的に取り組むべきことについては、「補助金や助成金の情報を市民にわかりやすく周知すること」が 77.3%で最多を占めました。
・「太陽光や風力等の環境負荷の少ないエネルギーの利用、省エネの取組を進めていくこと」が 53.0%、「市民や事業者と協力して再エネ・省エネに関する取組が推進できる体制を整えること」が 42.4%と続いています。

2-2-2 クロス集計

クロス集計は、属性と質問 2 及び質問 4 について実施しました。

表 2-28 属性と質問 2 のクロス集計結果

属性－Q2			あなたは再生可能エネルギーや省エネルギーなどに関する取組に関心がありますか。（SA）				
			関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	合計
質問1－1	20歳代以下	度数	0	0	0	0	0
		%	－	－	－	－	－
	30歳代	度数	2	3	1	1	7
		%	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	－
	40歳代	度数	13	20	12	2	47
		%	27.7%	42.6%	25.5%	4.3%	－
	50歳代	度数	2	7	2	0	11
		%	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	－
	60歳代	度数	1	0	0	0	1
		%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	－
	70歳代	度数	0	0	0	0	0
		%	－	－	－	－	－
	80歳代	度数	0	0	0	0	0
		%	－	－	－	－	－
	90歳代以上	度数	0	0	0	0	0
		%	－	－	－	－	－
質問1－2	2世代	度数	15	22	13	3	53
		%	28.3%	41.5%	24.5%	5.7%	－
	多世代	度数	3	8	2	0	13
		%	23.1%	61.5%	15.4%	0.0%	－
	その他	度数	0	0	0	0	0
		%	－	－	－	－	－
質問1－3	自営業（家族従事者含む）	度数	1	1	0	0	2
		%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	－
	正社員	度数	8	14	5	1	28
		%	28.6%	50.0%	17.9%	3.6%	－
	パート・派遣等の非正規雇用	度数	6	13	9	2	30
		%	20.0%	43.3%	30.0%	6.7%	－
	家事	度数	2	2	1	0	5
		%	40.0%	40.0%	20.0%	0	－
	無職	度数	0	0	0	0	0
		%	－	－	－	－	－
	その他	度数	0	0	0	0	0
		%	－	－	－	－	－
質問1－4	霞ケ浦中学校区	度数	6	12	3	2	23
		%	26.1%	52.2%	13.0%	8.7%	－
	千代田義務教育学校区	度数	3	6	5	0	14
		%	21.4%	42.9%	35.7%	0.0%	－
	下稲吉中学校区	度数	9	12	7	1	29
		%	31.0%	41.4%	24.1%	3.4%	－

（年齢別）

・30 歳代は、やや関心がある（42.9%）、関心がある（28.6%）の順で多く、両者の合計は 71.5%となりました。次いで関心がない、の 14.3%でした。

・40 歳代は、やや関心がある（42.6%）、関心がある（27.7%）の順で多く、両者の合計は 70.3%で、関心の程度は 30 歳代とほぼ同様の傾向でした。次いで、あまり関心がないが 25.5%でした。

・50 歳代は、やや関心がある（63.6%）、関心がある（18.2%）の順で多く、両者の合計は 81.8%となりました。あまり関心がない、は 18.2%でした。

・60 歳代は回答者数が 1 名であり、関心があるとの回答でした。

・30 歳代、40 歳代に比べて 50 歳代の方が関心の程度が高い結果となりました。

（世帯構成別）

・2 世代世帯は、やや関心がある（41.5％）、関心がある（28.3％）の順で多く、両者の合計は 69.8％となりました。あまり関心がない、は 24.5％でした。

・多世代世帯も、やや関心がある（61.5％）、関心がある（23.1％）の順で多く、両者の合計は 84.6％となりました。あまり関心がない、は 15.4％でした。

（就業形態別）

・正社員は、やや関心がある（50.0％）、関心がある（28.6％）の順で多く、両者の合計は 78.6％となりました。あまり関心がない、は 17.9％でした。

・パート・派遣等の非正規は、やや関心がある（43.3％）、関心がある（20.0％）の順で多く、両者の合計は 63.3％となりました。あまり関心がない、は 30.0％でした。

・家事は、やや関心がある、関心があるがともに 40％であり、両者の合計は 80.0％となりました。あまり関心がない、は 20.0％でした。

・自営業（家族従事者含む）は回答者が 2 名であり、関心がある、やや関心があるとの回答でした。

・どの形態ともに関心がある（やや関心がある含む）、の回答が全体の半数以上を占めました。

（学区別）

・霞ヶ浦中学校区は、やや関心がある（55.2％）、関心がある（26.1％）の順で多く、両者の合計が 81.3％となりました。あまり関心がない、は 13.0％でした。

・千代田義務教育学校区は、やや関心がある（42.9％）、関心がある（21.4％）の順で多く、両者の合計が 64.3％となりました。あまり関心がない、は 35.7％でした。

・最も回答者数が多い下稲吉中学校区は、やや関心がある（41.4％）、関心がある（24.1％）の順で多く、両者の合計が 66.5％となりました。あまり関心がない、は 24.1％でした。

（参考：同学区の 8 年生の回答は、あまり関心がない（50.0％）と関心がない（13.5％）の合計は 63.5％）

・全体的に、関心がある、の回答が全体の半数以上を占めました。やや関心がない、の割合は千代田義務教育学校区が一番多く 35.7％でした。

表 2-31 属性と質問 4 のクロス集計結果

Q4			あなたは生活の中で再生可能エネルギーや省エネルギー設備を活用していますか。(SA)			
			すでに活用している	興味はあるが、現時点では活用していない	活用の予定はない	合計
質問1－1	20歳代以下	度数	0	0	0	0
		%	－	－	－	－
	30歳代	度数	2	2	3	7
		%	28.6%	28.6%	42.9%	－
	40歳代	度数	15	23	9	47
		%	31.9%	48.9%	19.1%	－
	50歳代	度数	2	5	4	11
		%	18.2%	45.5%	36.4%	－
	60歳代	度数	0	1	0	1
		%	0.0%	100.0%	0.0%	－
	70歳代	度数	0	0	0	0
		%	－	－	－	－
	80歳代	度数	0	0	0	0
		%	－	－	－	－
	90歳代以上	度数	0	0	0	0
		%	－	－	－	－
質問1－2	2世代	度数	11	28	14	53
		%	20.8%	52.8%	26.4%	－
	多世代	度数	8	3	2	13
		%	61.5%	23.1%	15.4%	－
	その他	度数	0	0	0	0
		%	－	－	－	－
質問1－3	自営業(家族従事者含む)	度数	0	1	1	2
		%	0.0%	50.0%	50.0%	－
	正社員	度数	9	13	6	28
		%	32.1%	46.4%	21.4%	－
	パート・派遣等の非正規雇用	度数	8	15	7	30
		%	26.7%	50.0%	23.3%	－
	家事	度数	2	1	2	5
		%	40.0%	20.0%	40.0%	－
	無職	度数	0	0	0	0
		%	－	－	－	－
	その他	度数	0	0	0	0
		%	－	－	－	－
質問1－4	霞ヶ浦中学校区	度数	7	10	6	23
		%	30.4%	43.5%	26.1%	－
	千代田義務教育学校区	度数	5	6	3	14
		%	35.7%	42.9%	21.4%	－
	下稲吉中学校区	度数	7	15	7	29
		%	24.1%	51.7%	24.1%	－

(年齢別)

・30 歳代は、活用の予定はない(42.9%)が最も高く、すでに活用している、興味はあるが、現時点では活用していないがともに 28.6%でした。

・40 歳代は、興味はあるが、現時点では活用していない(42.6%)、すでに活用している(31.9%)の順で多く、両者の合計は 74.5%となりました。活用の予定はないは 19.1%でした。

・50 歳代、興味はあるが、現時点では活用していない(45.5%)、すでに活用している(18.2%)の順で多く、両者の合計は 63.7%となりました。活用の予定はないは 36.4%でした。

・60 歳代は回答者数が 1 名であり、興味はあるが、現時点では活用していないとの回答でした。

・40 歳代が活用済、興味がある、の占める割合が最も多く、30 歳代が活用していない割合が最も高い結果となりました。

（世帯構成別）

・2 世代は、興味はあるが、現時点では活用していない（52.8%）、すでに活用している（20.8%）の順で多く、両者の合計は 73.6%となりました。活用の予定はないは 26.4%でした。

・多世代は、興味はあるが、すでに活用している（61.5%）、興味はあるが、現時点では活用していない（23.1%）、の順で多く、両者の合計は 84.6%となりました。活用の予定はないは 15.4%でした。

・2 世代、多世代ともに活用への関心が高く、多世代ではすでに活用しているが全体の半数以上を占めました。

（就業形態別）

・正社員は、興味はあるが、現時点では活用していない（46.4%）、すでに活用している（32.1%）の順で多く、両者の合計は 78.5%となりました。活用の予定はない、は 21.4%でした。

・パート・派遣等の非正規は、興味はあるが、現時点では活用していない（50.0%）、すでに活用している（26.7%）の順で多く、両者の合計は 76.7%となりました。活用の予定はない、は 23.3%でした。

・家事は、すでに活用している（40.0%）、興味はあるが、現時点では活用していない（20.0%）、の順で多く、両者の合計は 60.0%となりました。活用の予定はない、は 40.0%でした。

・自営業（家族従事者含む）は回答者が 2 名であり、興味はあるが、現時点では活用していない、活用の予定はないとの回答でした。

（学区別）

・霞ヶ浦中学校区は、興味はあるが、現時点では活用していない（43.5%）、すでに活用している（30.4%）の順で多く、両者の合計は 73.9%となりました。活用の予定はない、は 26.1%でした。

・千代田義務教育学校区は、興味はあるが、現時点では活用していない（42.9%）、すでに活用している（35.7%）の順で多く、両者の合計は 78.6%となりました。活用の予定はない、は 21.4%でした。

・最も回答者数が多い下稲吉中学校区は、興味はあるが、現時点では活用していない（51.7%）、すでに活用している（24.1%）の順で多く、両者の合計は 75.8%となりました。活用の予定はない、は 24.1%でした。